

るにこそと、戯れ宣ひし事のありじを、公と知參らせし成べし。

〔源氏物語九〕そのよさり、ゐのこのもちるまいらせたり、

○按ズルニ、玄猪ニ玄ノ子餅ヲ食フ事ハ、歲時部玄猪篇ニ詳ナリ、宜シク參看スベシ。
〔東都歲事記十四月〕朔日、乙子朔日とて諸人餅を製し祝ふ(中略) 今日製する餅を乙子のものとす。又川浸餅ともいふ。水土を祀るの義いともいへり。此日餅を食へば、水難なしといへる俗習によりて、武家にてもこの事あり。交代の砌海上、安全を祈らるゝことあるなるべし、船宿船頭の家にてはとりわき祝ふなり。

〔新猿樂記〕四郎君受領郎等刺史執鞭之圖也。○得萬民追從、宅常擔集諸國土產、貯甚豐也。所謂中略近江、鮒、若狭、椎子(中略) 又餅。○飛驒餅、鎮西米等、如此贊菓子、輒々繼踵、濟々成市云々。

〔毛吹草三〕山城、甘餅、醒井分餅、茶屋栗餅。

〔雍州府志六土産〕餅處々店製之、其中京北渡邊道喜、并道和、五條御影堂前方廣寺大佛殿前店製之、但稱大佛餅家者、誓願寺前在之外不聞之、各形色風味爲勝、栗餅北野茶店爲佳。

〔都名所圖會三〕洛東大佛餅の濫觴は、則方廣寺大佛殿建立の時より、此銘を蒙り賣弘ける、其味美にして、煎に蕩す炎に芳して、陸放翁が炊餅、東坡が湯餅にもおとらざる名品也、唐破風作の額標版は主水の筆にして、代々こゝに住して、遠近に其名高し。

〔本朝世事談綺一飲食〕大佛餅

根元は京誓願寺前にてこれを製す、今以堂上方へも召さる、至て其風味格別也、又方廣寺大佛殿の前にあり、これ又好味なり、江戸淺草にて製するは、これを倣て大佛餅の名目を以す、近世數品の餅あり、iga餅、さつさ餅、あん餅、くり餅の類ひ多く、提重杉折に盛りて美を盡せり、

〔明和新増〕京羽二重大全三大佛餅所

大佛正面筋角

〔雍州府志六土產〕炒豆、北野真盛寺尼炒黑豆磨青芥葉水解爲黑豆衣、別粳餅、方三分許切之、炒雜炒。